

西東京市 図書館だより

第64号

平成29年(2017年) 1月15日

中央図書館

西東京市南町5-6-11
042-465-0823

保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30
042-421-3060

芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48
042-465-9825

谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2
042-421-4545

柳沢図書館

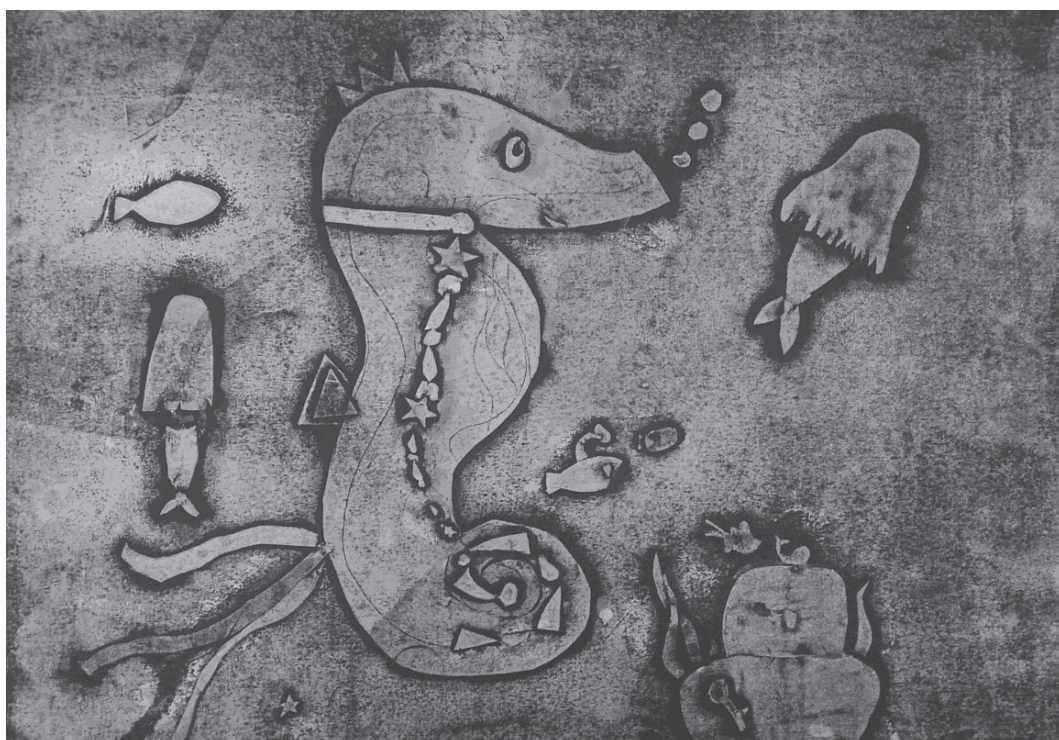
西東京市柳沢1-15-1
042-464-8240

ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



「深海のふしぎな生き物」
本町小学校 三年

「図書館を使いこなそう！」

普段みなさんはどのように図書館を利用されていますか。

本や雑誌、CDを借りたり、ご自身で調べものをされたり…。実は図書館の使い方はそれだけではありません。

たとえば図書館では、年間を通じてさまざまな講演会を実施しています。講師の話聞くだけでなく、資料の活用に深く結びついています。

今年度は「今、必要なしなやかに生きる力 患者自身もつ力」では医療健康情報を、「知っていますか？マルチメディアアイジー」すべての子どもたちに読書の楽しさを、「では多様な読書のあり方をご紹介します。講演会では講師の著作を展示すると、終了後借りていかれる方もいらっしゃいます。

その他にも講座を開催しました。「子ども切り絵体験教室〜世界でひとつのバラのモチーフを作ろう！」では親子で学び体験できる場を提供し、「データベースを使って江戸を知ろう！〜越後屋の正体、日本橋の秘密〜」では、紙以外の情報源の活用方法を、実際にデータベースを使って操作していただきました。

講演会や講座をきっかけとして、図書館の資料を利用することで、日常生活に役立てていただく、あるいは活動の場が広がっていく、それが図書館の願いです。そして、みなさまの「もっと知りたい」をサポートする図書館をおおいに活用してください。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら
谷戸図書館 ☎421-4545へお問い合わせを

広がるデジタル資料 いつでもどこでも 情報にアクセス

西東京市図書館では、紙の資料のほかにさまざまなオンラインデータベースをご用意しています。そこにあらたに国立国会図書館が提供する二つのデータベースが加わりました。

一つ目は、「国立国会図書館デジタルコレクション(図書館向けデジタル化資料送信サービス)」です。絶版等の理由で入手が困難な資料、約142万点が、図書館で閲覧できます。古い民謡集や重要文化財に指定されている江戸時代以前の和古書、昭和30年代の入試問題集などに、図書館から簡単にアクセスできます。

紙資料では閲覧が困難な資料を、高画質で、自在に拡大縮小しながら細部までじっくり閲覧できることも、デジタル資料の大きな強みです。調べものにはもちろん、昔読んだ雑誌をもう一度見たい、というような場合にも是非ご利用ください。(西東京市図書館の利用登録がある方のみご利用いただけます)

二つ目は、「歴史的音源配信サービス」です。1900年初頭から1950年頃までに国内で製造されたSP盤及び金属原盤等に収録された

音楽・音声など、約5万点の音源を聴くことができます。

落語や民謡などの演芸音声からオリンピックの実況、昭和初期の街頭演説など、貴重な当時の音をお楽しみください。ご利用の際には、イヤホンやヘッドホンをお持ちください。

どちらも、インターネット端末のある中央・保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館の4館にてご利用いただけます。

*国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧できる資料例



ルイス・カロール著 [他]
『アリスの夢』平凡社
昭和5年(1930)



「築地工事見積并略圖」
明治4年(1871)

すべての子どもたちに 「読書の楽しさ」を伝えるために

昨年4月に施行された「障害を理由とする差別の解消に関する法律」のもと、10月15日に『知っていますか? マルチメディアデジジー—すべての子どもたちに読書の楽しさを—』と題して講演会を開催しました。マルチメディアデジジーの製作、普及活動を行っている矢部剛氏(伊藤忠記念財団電子図書普及事業部)を講師にお招きし、講義を聞きながら一人1台タブレットを操作しながらマルチメディアデジジーについて学びました。

紙の本では読書が困難な子どもが増加しているという衝撃的な話から始まりました。それは弱視や学習障害、知的障害のために文章や漢字を読むことが苦手な子ども、肢体不自由でページがめくれない子ども、無菌室に入っているのでも本を持ち込むことができない子ども達がいるという事実です。また、実は読むことが苦手なのに、周囲の大人たちが気づいていないというケースも増えているそうです。

マルチメディアデジジーは一枚のCDROMの中に一冊の本の情報が入っています。パソコンやタブレットの機器を使って読むことができます。

す。音声と一緒に文字や画像が表示され、どこを読んでいるのかわかるよう、文字がハイライトで表示されます。カラオケの時の歌詞表示画面を想像してください。さらに文字の大きさ、音声の読み上げスピード、文字色や背景も色を選択できるので、ひとりひとりに合った読書環境を整えることが可能となります。残念ながら、紙の本の出版量に比べるとマルチメディアデジジー図書は追いついておらず、読みたい本がいつでも読める状況はまだ遠いというお話でした。

図書館では、子どもたちが読書を楽しめるようマルチメディアデジジー図書を可能な限り購入し、貸出しを行なっています。ぜひ図書館にお問い合わせください。



10月15日に開催された講演会の様子

第15回

「市役所のいま・むかし」



保谷、役場から市役所へ

明治二十二年(1889)、町村制施行に伴い、上保谷村、上保谷新田、下保谷村が合併して保谷村となりました。

明治三十一年(1898)、村の有志の寄付によって保谷村役場事務室と控室、土蔵が完成しました。工費は当時の金額で一千百円でした。所在地は、現在の保谷町一丁目一番一号で保谷郵便局がある所です。

昭和十五年(1940)、保谷村から保谷町となりましたが、役場が建つこの場所は、ほぼ町の中央に位置し、長年に亘り住民に親しまれました。

昭和四十二年(1967)市制施行となり保谷町役場は保谷市役所となりました。昭和三十年代の人口増加に伴う業務対応で職員も増員し、度重なる増築を行いました。収容が困難となり、また敷地の制約により更なる増改築も不可能であったため、北へ二百mの旧保谷町グラウンド(中町一丁目五番一号)の地へ新庁舎を建設することとなりました。

昭和四十二年(1967)、設計をカトー設計事務所が担当し、昭和四十三年(1968)七月三十一日

の竣工まで、総工費約四億四千三百万円をかけて完成しました。鉄筋五階建一部鉄骨の約六千八百八十三㎡(敷地面積約一万六千二百九十二㎡)に各部課を配置すると共に、食堂や小集会所、民主団体室などが用意されました。周辺には体育館やプール(平成十年、同敷地にこもれびホール開設)を建設し共有場所が多い「市民センター」としての位置付けがされました。



昭和 28 年 保谷町役場



平成 13 年
西東京市役所 保谷庁舎

田無、役場から市役所へ

田無の庁舎は、明治元年(1868)、青梅街道に面して、ほぼ町の中央にある密蔵院というお寺(田無町三丁目八番九号)の一室に戸長役場が置かれたことから始まります。昭和七年(1932)には、木造二階建て三百四十一㎡の庁舎に建てかえられました。

昭和三十年代に入ると、保谷市と同じく人口増加に伴い増築、分室設置、民間施設の借上げなどで対処しましたが、住民にとっては不便で事務効率も悪く、建物の老朽化も進みました。

昭和四十二年(1967)、田無市となり新庁舎建設を望む声もありましたが、小中学校の施設整備、公共下水道の普及、福祉の充実などの事業を優先しました。

昭和四十六年(1971)、市は新庁舎建設資金の積立を開始、昭和四十七年(1972)、田無市基本構想(昭和四十七年度～五十五年)に建設計画が盛り込まれました。

市議会には市庁舎建設特別委員会、庁内には検討委員会、市長の委嘱による田無市庁舎建設審議会が調査検討を始め、市民からの意見を聴く会も開催しました。

田無市第二期基本構想(昭和五十六年度～平成二年度の重点課題として三カ年の継続事業となりました。

設計は佐藤武夫設計事務所が担当し、田無駅南口の旧田無第一中学校跡地(南町五丁目六番十一号)の中央図書館隣りに、昭和五十七年(1982)二月から昭和五十八年(1983)十月の竣工まで、約一年八ヶ月をかけて建設されました。地下二階、地上五階建ての鉄筋コンクリート造り一部鉄骨の約二千八百㎡(敷地面積約八千五百五十七㎡)、総工費二十八億二千九百万円です。

「市民の自治センター」となるよう開放型のロビーや会議室を持ち、省エネルギー省資源など考えられた設計となっています。

平成十三年(2001)一月、両市役所は西東京市役所田無庁舎と保谷庁舎になりました。



昭和 6 年 田無町役場



平成 16 年
西東京市役所 田無庁舎

1 図書館とのかかわり

私は昭和十九年生まれ、当年として七十二歳です。西東京市での生活は四十数年になりますが、市の図書館をよく利用するようになったのは、退職後のここ五年ほどです。

もともと本が好きで、本に囲まれていれば、あとは言うことなしという質(たち)です。

そんな私ですから、読みたい本があると待ち切れなくなり、西東京は言うに及ばず、東久留米、三鷹、武蔵野、小平、清瀬、東村山、新座、練馬区など隣接する市区の図書館をいろいろと回っています。

幸いにも、七十歳を過ぎて東京都のフリーパスが使えるようになったので、バスは乗り放題です。西武線やJRを使わずに得ないときにはどの経路を行けば安上がりか、かつ効率的に事が運ぶか考えるのも「頭の体操」になります。

2 図書館に期待すること

新聞や雑誌もよく利用します。新聞はどの図書館もほぼ揃っています。雑誌は種類も多く、館によって置いてあるものが違うので、「この館じゃなかったか」というようなこともたびたびです。

本を利用して不快に思うのは、ページの折り跡が残っていたり、鉛筆で傍線が引いてあったり、印がつけ

てあったりすること。自分で買った本なら、ページを折るうが、どんな書き込みをし

ようが勝手ですが、図書館の本は公共のもので、できるだけ汚さずに次の人に回すのがマナーではないでしょうか。

付箋や葉を利用すればページを折らずにすむはずですが、傍線を引いてしまったのなら、せめて消しゴムで消しておくぐらいの配慮

ができないのかと腹が立ってきません。自分と同じような思いをしている人はたくさんいると思います。利用する側のマナーの啓蒙をお願いできたらと思います。

利用者エッセイ

わたしと図書館
榎本桂三

文化講演会

今、必要なしやかに生きる力 患者自身が持つ力

もしも自分が、もしも身近な人が病気になったとして、病気やドクターとどう付き合っていけばよいのか。

9月17日、市内NPO法人『ALDの未来を考える会』理事長である本間りえさんをお招きし、今わたしたちに必要な「生きる力」についての講演会を開催しました。

本間さんは、ご子息のALD(副腎白質ジストロフィー)発症後、ご自身の介護経験をもとにNPO法人を設立され、現在さまざまな企業や大学、医療関係施設などで、精力的に講演を行っていらっしゃいます。

今回の講演では、ご自身の介護生活から得た生きるためのヒントや、患者や介護者として、いかに医療関係者とうまく関係をつくるか、福祉を自分に合ったかたちでよりよく受けるには等、まさに現代を「しなやかに」生きるためのお話をしていただきました。

介護や病気など、決して誰もが他人事にはできないテーマを掲げた講演だったためか、参加者の方々が細かくメモをとったり、大きく頷きながらお話を聞く様子などが伺えました。

約一時間の講演の後、参加者を四つに分けてグループトークを行いました。

したが、各グループとも積極的に意見を交わすなど、有意義な会となりました。



利用者参加型企画展示
「心に残るおすすめの本」に、
たくさんのご応募
ありがとうございました

全館で44冊のご応募がありました。また内容を一新して募集を行いますので、ふるってご参加ください。

